

会議記録書	
会議名	第31回草津市図書館協議会（委員発言・質問、事務局事業説明・回答要旨）
日時	令和3年3月22日(月) 10:30～12:00
場所	草津市立図書館 3階 大会議室
出席者	岸本委員長、高山副委員長、柳澤委員、山本委員、高井委員、江竜委員、市川委員、 内田委員、武井委員、中瀬委員 事務局（武村図書館長、二井副館長、川端副館長、齋藤）
傍聴者数	1名
記録作成者	図書館 齋藤

1. 開会挨拶（武村図書館長）

- ・今回で今年度最後の会議となります。
- ・議題について、忌憚のない御意見をいただければと思います。

2. 議題

（1）令和2年度図書館利用者アンケートについて

〈事務局より、令和2年度の利用者アンケートについて説明（資料1）〉

【アンケートについての取組】

- ・令和2年12月19日から令和3年1月31日まで実施した。
- ・今年度より、電子回答ができるフォームを利用し、紙と電子どちらでも回答できるようにした。
- ・チラシには電子回答フォームのQRコードを付け、利用を促進した。
また、図書館で公開している各種情報へのリンクもQRコード化して掲載した。
- ・前年度に好評であった図書館サービスの用語解説は回答後も手元に残るようアンケート用紙とは別に印刷し、写真等も入れてより分かりやすくなるよう努めた。
- ・アンケート本文にも簡単な用語解説を入れ、回答しやすくなるよう工夫した。
- ・草津市の広報やホームページも活用して、PRを行った。
- ・質問が多くて回答が手間という意見もあり、前年度から質問を厳選した。
- ・総合満足度の項目および、両館の周年事業についての項目を追加した。

【アンケートの集計結果速報】

- ・配布枚数は両館合わせて約4,000枚、回答は549件（うち紙媒体約53%、電子回答約47%）
- ・レファレンスサービスおよび乳幼児・児童向けサービスの認知度は前年より上昇した。
- ・利用の満足度が高かった項目は主に、職員の対応、開館時間・休館日、貸出冊数・貸出期間だった。
- ・利用の満足度が低評価だった項目は主に、視聴覚資料（CD・DVD等）の収集・貸出、雑誌の収集・貸出、館内の読書環境だった。
- ・両館のサービスの総合評価について満足、おおむね満足と回答した方の割合は75.6%であった。
- ・両館の周年記念事業について、「特別な事業は必要ない」と回答された方が最も多く、次いで「記念講演」、「子ども向けのイベント」という意見が寄せられた。その他「それよりも資料の充実を」「リサイクル市の実施」「図書館の歴史の展示」という意見が寄せられた。

【アンケートの分析速報】

- ・回答数が前年度よりも少ないのは、新型コロナウイルス感染症の影響で利用者が減っていることに加え、昨年度まではアンケートを手渡ししてその場で（館内で）記入していただいた方が多かったが、今年度は感染症拡大防止対策を行っていることもあり、館内でゆっくり回答いただけなかったことが大きな要因と考えられる。
ただし、統計学的には今年度の回答数でも十分信頼できるアンケート結果になると考えている。
- ・電子回答の導入で、比較的若い世代の回答割合も増えた。
- ・館内の読書環境についての満足度が低いのは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で館内の椅子や机の数を減らし、なるべく30分以内の滞在をお願いしていることが大きな要因と考えられる。
- ・更に詳しい分析は現在行っている。
- ・最終のアンケート結果はホームページで公開する予定。また、次回の図書館協議会でもご報告する。

○委員意見

- ・満足度が低い視聴覚資料や雑誌の収集については今後改善できるものなのか。
→人によって好みの幅が広く、購入タイトル数がある程度決まっている中で偏りなく資料の収集を行っているため、全ての希望に応えるのは難しいところはある。雑誌については今年度休刊となったものが多かったことも影響したと分析している。
- ・視聴覚資料や雑誌の購入希望はどのようなものが多いか
→雑誌に関しては健康関連の内容のもの要望が多い。
CD・DVDに関しては年齢層によって違いがある。高齢層は演歌、講談、落語の要望が多く、若年層は最新のヒットソング、話題の作品の要望が多い。
選書基準を設けているのでその基準に合致するもの選定して購入している。
視聴覚資料は年に何度かのタイミングで購入しており「最新作が借りられない」ということや、人気で予約も多くつくものでも本のように複数購入できないことから、利用者目線では「いつ来ても貸出中になっている」「予約で長期間待たなければいけない」ということで満足度の低さに繋がっているのではと分析している。
- ・今回は本館利用者と南館利用者の回答は区別なしか
→今年度の調査では区別していない。
- ・今年度は新型コロナウイルス感染症拡大で図書館の利用者が減ったというのは間違いない。そんな中でもアンケートに回答するのは図書館に対して比較的好意的な方が多いかもしれない。
- ・本を読む場所は図書館だけではないので、草津市民の読書意識の調査としてはこのアンケートが全てではないが、図書館の利用者へのアンケートとしては十分な数の回答が得られているのではないかと。

(2) 令和3年度の図書館運営および事業計画について
〈事務局より、次年度の計画について説明(資料2)〉

- ・年間計画は、草津市の図書館運営計画(後期計画)に基づいて作成した。

【両館での新たな取組】

- ・利用の少ないYA世代に向けたホームページの開設。
中高生に作成してもらったおすすめ本のPOPや、YA向けの新刊案内を掲載するなど計画している。

【移動図書館サービスの見直し】

- ・「草津市の図書館運営計画(2020-2024後期計画)」において、今後取り組むべき主な課題に市内各地域の特徴(人口構造等)にあわせた全域サービスを行うことが挙げられている。また、「移動図書館による全域サービスの充実とステーションの見直し」が、主な施策・事業内容に挙がっている。このことから、令和2年度に1年かけて実地調査を行い、高齢者が多く図書館への来館もしづらい地域の方にも図書館を身近に感じていただけるよう令和3年度からステーションを増やす。また、市内4コース・合計20ステーション/月2回を、市内8コース・合計25ステーション/月1回に変更する。
- ・ステーション安全面、天候に左右されずに運営できるかなども考慮して現行ステーションを見直した。
- ・地域の特性ごとに、移動図書館車に積み込む本を変えて読書欲求に応じていく。
- ・各ステーションには月1回の巡回になるが、ステーションを増やし、滞在時間をこれまでより長くすることで移動図書館による全域サービスの充実をはかる。
- ・中でもフレンドマート志津東草津店はまめタクの起終点でもあることから、利用ニーズが多いのではないかと見込んでいる。

【予算関係について】

- ・令和2年度2月市議会定例会で資料費は充分かどうかという質問が出て、教育長より資料購入実績は過去10年でほぼ同等の水準を維持しているが、消費税の増や一冊あたりの単価が高い専門書の購入などから購入冊数は約10%減少しているということ、そんな中で、市民千人あたりの図書購入冊数は同規模自治体の平均が114冊に対して本市は121冊で一定の整備ができているということについて答弁があった。
- ・しかしながら、同規模自治体と言ってもその利用状況はさまざまであり、本市図書館は、本来平均ではなく全国の上位レベルの充実を目指している。
- ・平成31年度のデータによると、本市は同規模自治体の中で貸出数が全国7位、予約件数は全国17位であるにも関わらず、資料購入費はランク外(公表は20位まで)となっており、破損資料の買い替えやリクエスト本の購入までなかなか手が回っていない状況であり、利用者のニーズに応えきれていないというのが現場の思いである。
- ・共済費が増額しているのは、令和2年度が会計年度任用職員制度導入の初年度であり、期末手当の計算方法が雇用2年目以降は変わることに伴うものである。
- ・委託料の増額は主に外壁や空調の整備といった施設の経年劣化にともなうものである。
- ・図書館運営費は増額に対し、南草津図書館運営費の減額は、令和3年度の草津市の予算が令和2年度比で5%マイナスシーリングがかかることにともない、両館の資料費を合算し、実情に合わせて配分

し直したことによるものである。

(利用数、リクエスト数の多さの考慮や、単価の高い専門書や学校連携用の書籍の購入などを本館に集約することを考慮)

- ・全体的に見ると予算額が増えたように見えるが実際はほとんどが古くなった建物の補修のために必須のものである。職員一丸となってすでに消耗品等の節約を実施しているほか、事業の見直し等を行い、必要最低限の予算を残して資料購入費に充てても、シーリングの影響による減額は避けられず、大変不本意であると同時に、今後の予算獲得は大きな課題である。

○委員意見

- ・YA 世代の中高生の利用が少ないというのは想像がつく。そんな中で図書館を利用している子はどのような目的で来館しているのか把握できれば、逆に利用していない子たちへのアプローチのヒントになるのではないかと考える。
 - 中高生になると部活や塾で時間的に図書館を利用しなくなるというのは定説であるが、どのような環境の子がよく利用しているかというところまでは把握しきれていないのが現状である。
居場所のひとつとして図書館を身近に感じてもらえるように高校連携交流会などの場を設けてニーズを探っている。
- ・学校現場でもどのような子がよく図書館を利用するかという傾向は把握しきれていない。部活に関しては近年活動時間の制限が厳しくなっている。その分空いた時間がすぐに図書館に流れるかといとそうは言えないが、このタイミングで中高生へのアプローチを強化することはこれからの期待できと思う。
- ・部活で言えば、文化部よりも運動部のほうが図書館を活用しないイメージがあるが、本からスポーツを学ぶこともできるというアプローチもあると思う。また、コミックなら読むという子も多いと思う。
 - そういう声を受けてスポーツ関連の本は積極的に収集している。また、コミックをきっかけにして他の読み物につなげていくことを狙った展示を行ったところ好評であった。
「子どもの居場所づくり事業」の中でミニブックトークを行った際に、最初は興味がなくても色々な本を紹介し続けることで次第と手に取ってくれるようになっていくと感じているので、手探りながらも色々なアプローチを試していきたい。
- ・YA 世代へ向けた取組への努力を感じる。ホームページ開設の取組も良いと思う。中高生は様々なツールから情報を得ている。ホームページはアクセスを待つ比較的受動的なツールなので、SNS を活用しての発信も検討してほしい。
- ・YA 用にどれだけ資料費を割けるのか、資料をリクエストしても購入してもらえないことが続くと残念に思われてしまうのではないかと。図書館の社会的な役割もふまえながら予算配分のプロセスを説明するのも良いのではないだろうか。
- ・中高生の居場所づくりとしては最終的にハード面でのスペースの問題があるのが課題だろう。

- ・YA 世代には時間はかかるが地道にアプローチし続けることが一番効果的だろうと思う。
- ・お客さんというよりも中高生と一緒に主体的に参加していける企画づくりも YA サービス成功のカギとなるだろう。繋がりを大切にしながら頑張してほしい。
- ・家庭教育サポート事業（一歳半検診時の読書相談と小学校保護者対象の読書啓発）について詳しく伺いたい
 - 家庭教育サポート事業は生涯学習課と連携して取り組んでおり、家庭の読書環境を整えることを目的として実施している。一歳半検診時の読書相談はコロナ対策下では実施できなくなってしまったが、検診の待ち時間に絵本の読み聞かせや読書アドバイスをするものである。
 - 小学校保護者対象の読書啓発は学校に出向いて PTA を対象に講演会を行うものである。毎年必ず行っているわけではないが、依頼があれば今後も行っていく。また、図書館がメインの講演でなくても関連本の紹介などで携わっていく。
- ・小学校保護者対象の読書啓発について、とても良いと思うのだが、PTA の役員をしていた時に依頼したら講演してもらえとは知らなかった。PTA 役員も主体的に企画内容を探す余裕がなく、貰った情報の中から選ぶことが多いのが現状だと思う。これまで講演実績が少ない学校などに図書館からアプローチをしてほしい。
- ・特に子どもが触れる絵本について、新型コロナ対策はどうしているか。
 - 絵本に限らず、除菌という観点では、図書消毒機を両館ともに2台ずつ設置しており、利用者の任意で消毒をお願いしている。密を避けるという観点では、以前は返却された本は「今日返った本」として開架に設置していたが、一旦バックヤードに引いてから配架するようにしている。
- ・世代ごとに色々な取組をされているのは有効ではあるが、地域交流や世代間交流という観点での取組にも期待をしたい。公共の施設でこれだけ幅広い層が自然と集まる施設はない。このメリットをどう生かしていくか、他部局と一緒に考えていってほしい。
- ・児童書コーナーと一般書コーナーは分かれていて、YA コーナーやコミックコーナーも少し奥まったところにあるが、若い人にはこんな本が人気なのかと知るだけでも世代間交流に繋がると思う。
- ・コロナ禍で、小中学生は学校でタブレット PC を一人1台扱うようになった。チームスなども使えるので遠隔でブックトークのような講演を実施したり、図書館のホームページをブックマークに最初から入れておいたり、子どもたちに向けたアンケートのようなこともタブレット PC を使って実施できるのではないかと考える。学校と連携しながら図書館がどのように関わられるか、今が変化の時ではないだろうか。
- ・予算面では厳しい状況が続くが、本の寄付を賜るという部分で寄付本コーナーを設けたり、雑誌スポンサー制度のようにクレジットを付けるなど、工夫してほしいのもひとつの手段ではないか。

その他連絡

(1) 草津市図書館協議会委員の任期について

現委員の任期は令和3年8月31日で満了となる。

詳細は次回の協議会(第32回、6月開催予定)にてお伝えさせていただく。

16:40 閉会